

加賀国府と能美郡衙ぐんが



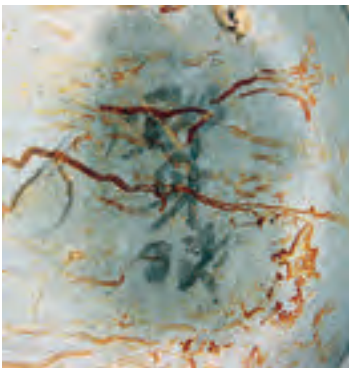
国府推定地(小松市古府町付近、平成22年9月撮影) 背後に白山、平野の中央を梯川が流れる。

延暦十三年(七九四)の平安京

遷都から二九年を経た弘仁十四年(八二三)、越前守紀末成の申請によって、同国江沼・加賀二郡を分割して、加賀国が成立した。さらに江沼郡から能美郡、加賀郡から石川郡を分離して四郡とした。

江沼郡は長江・忌浪・山背・竹原・額田・菅浪・八田・三枝の八郷及び朝倉・潮津の二駅、能美郡は軽海・野身・山上・山下・兔(得)橋の五郷と安宅・比楽の二駅からなる。

これら二郡の郷と駅のうち、現在の小松市域に主に比定できるのは、江沼郡の額田・八田郷及び能美郡の軽海・野身・兔橋郷と安宅駅であろう。



佐々木遺跡出土墨書土器(小松市埋蔵文化財センター所蔵) 佐々木遺跡は梯川中流域に位置する。出土遺物の一つに「野身郷」と墨書された須恵器がある。『和名類聚鈔』にみえる郷名が確認される貴重な例である。



石部神社(小松市古府町) 梯川右岸の船見山に鎮座する。『延喜式』神名帳にみえる能美郡八座の一つ。国府の南に位置した加賀国惣社の府南社といわれる。

長岡京跡出土木簡(京都府向日市教育委員会所蔵) 安宅駅の戸主財豊成の戸から米五斗が長岡京に貢進されたことを示す木簡。



国の役所を国府といひ、中心の政庁や官衙・倉庫・工房、国司の居館からなる。国府の所在地について、現在のところ発掘調査などによって推定地が確認されていないことから、文献史料から推定作業がなされている。『延喜式』や

『和名類聚鈔』の諸本によれば、能美郡と加賀郡との二説がある。この二説をめぐって、立国時には加賀郡に所在したともいえるが、いっぽう当初またはある時期から能美郡に置かれたことが確実と理解されている。梯川と鍋谷川の合流点に位置する国府村(現在の小松市古府町)を遺称地とする。能美郡衙については、平安後期に立券された郡家荘の名称から、現在の能美市中庄付近が比定地とされている。郡衙との関連で、比定地に近接する高堂遺跡(小松市高堂町)が注目される。平安前期の掘立柱建物一七棟と、「金光明最勝王経四天王護国品」と墨書された木簡等が発見されたことから、郡衙と関係する宗教施設の可能性が指摘されている。(木越祐馨)